

特定非営利活動法人 移動支援 Rera

2015 年度 事業報告書

2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日



«事業報告書概要»

0.	団体概要2
I.	移動困難な住民の送迎支援活動3
II.	福祉送迎講習会8
III.	連携団体とのネットワーク形成10
IV.	外部協力者と連携した団体組織基盤強化12
V.	茨城県常総市の水害被災地支援14
VI.	その他の活動15
VII.	運営に関する報告17

団体概要

【特定非営利活動法人移動支援 Rera 定款第3条】

この法人は、移動困難な住民に対して、送迎活動等のサポート事業を行うことにより、生活する上で必要不可欠な移動手段を確保し、彼らの健全な生活の維持に寄与することを目的とする。

団体のあゆみ

2011年 3月 11日	東日本大震災発災
3月 15日	NPO 法人ホップ障害者地域生活支援センターが宮城県石巻市入り 被災障害者の支援を行いつつ瓦礫撤去、避難所設営、物資整理等に協力。
4月 8日	現地支援活動団体名を『災害移動支援ボランティア Rera』と決定 活動内容を「移動困難な被災住民の送迎」に集中させる。
2012年 4月 1日	運営主体が石巻地区の住民ボランティアに移行 行政・民間連携による『石巻地区災害移動支援連絡会』開催（～翌年3月）
2013年 2月 15日	宮城県認証の『NPO 法人移動支援 Rera』設立 助成金・補助金・寄付金・協力費等を活動資金に、移動支援活動を継続。

◆2016年3月末時点における

累積送迎人数………104,760名
送迎名簿登録者数………1,432名
車両総走行距離数………約 111万 km
(地球約 28周分)



主な活動内容

- ◆ 宮城県石巻地域を中心に、病気や高齢、障害等の様々な理由で自力での外出手段を持たない住民のために、地域住民が中心となり少ない利用者負担で利用できる送迎をおこなうことにより、通院や買い物等の外出手段を確保し、心身の健康維持や介護度悪化の防止、生きがいづくりを促進する。
- ◆ 公共交通機関の利用案内等、ボランティア送迎利用以外の外出手段の利用促進。
- ◆ 地域住民や支援者に向けた福祉送迎講習会を開催し、地域に送迎活動の担い手を増やす。

事業報告

I. 移動困難な住民の送迎支援活動

震災直後より一貫して行ってきた、自力での移動手段を持たない移動困難者の送迎支援活動。



1. 活動概要

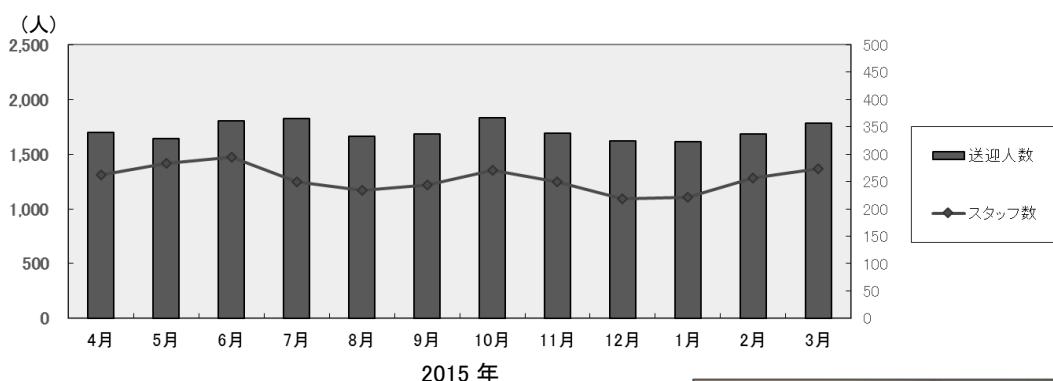
- ◆ 車両 9 台（6 台所有、3 台借用）を使用した移動困難な住民の送迎支援
 - ◆ 対象者…公共交通による移動が困難で、家族などが送迎できず、経済的に余裕がない住民など。
 - ◆ 送迎範囲…石巻市・東松島市・女川町の住民。送迎対象者の利用上限は基本的に週 2 回まで。
 - ◆ 送迎形態…道路運送法上「登録を要さない」無償の範囲内として、送迎にかかる実費分以下、
2km ごとに 100 円を『協力費』として利用者にお願いした。
 - ◆ 利用希望者は『同意書』『申告書』に状況を記入し、団体へ提出。団体は名簿で管理。
- ◇ 2015 年度内新規利用登録者数…136 名
- ◇ 2015 年度申告書提出者数…96 名

2. 送迎実績

- ◆ 年間合計のべ 20,546 名（月平均 1,712 名）の送迎。
- ◆ 復興住宅の建設が本格的に始まり、仮設住宅などの利用者の引っ越しが増えた。復興住宅がすべて完成するのはまだ数年かかるため、仮設住宅にこの先も当分居住する住民も多く、新しい復興住宅と仮設住宅に目的地が分かれ、送迎が難しい状況となっている。

- ◆ 復興住宅完成前には「せめて仮設住宅があるうちは」を合言葉として活動期間の目安を考えていたが、復興住宅に転居した利用者も、病気や障害などで公共交通機関を利用できない、公共交通が通っていない、経済的に厳しい等、移動困難な状況は改善されず移動支援を必要とする住民も多いということが明確化してきた。
- ◆ 人工透析の送迎依頼が後を絶たず、特に年度の後半はほとんどの人工透析送迎の依頼を断らざるを得ない状況となり、移動支援のニーズに応えきれないケースが多くあった。
- ◆ 2016年1月、活動当初からの送迎累積人数がのべ10万人を突破した。

	2015												2016		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	日平均
送迎人数	1,701	1,641	1,801	1,825	1,662	1,688	1,835	1,693	1,620	1,616	1,684	1,780	20,546	1,712	75
送迎回数	1,402	1,376	1,549	1,520	1,372	1,423	1,525	1,371	1,339	1,302	1,363	1,431	16,973	1,414	62
スタッフ数	262	283	294	250	234	244	271	250	218	221	257	273	3,057	255	11



《実施期間》

2015年4月1日～2016年3月31日（事業期間内の全日）のうち、日曜、元日、研修を除く毎日。

（年末年始、お盆、ゴールデンウィーク期間は一部透析送迎のみ。）

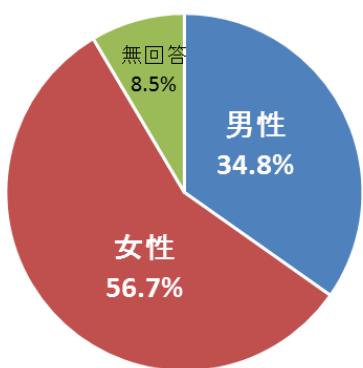


《Iの事業に要した費用》……11,986千円

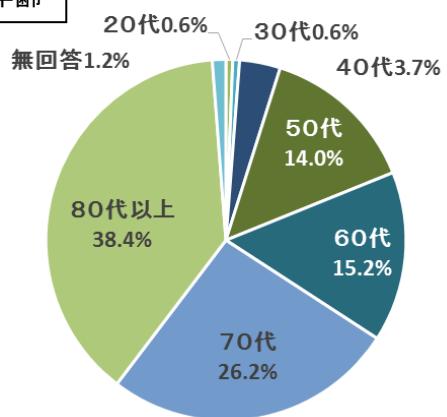
3. 利用者の声（内閣府受益者アンケート結果）

- ◆ 2016年2月～3月にかけて、内閣府による被災地支援NPO活動の受益者向けアンケート調査に協力し、送迎利用者の活動による効果を取りまとめた。約3週間の送迎利用者190名に用紙を配布し(一人一枚)、164枚の回答を得た。(回収率86%)

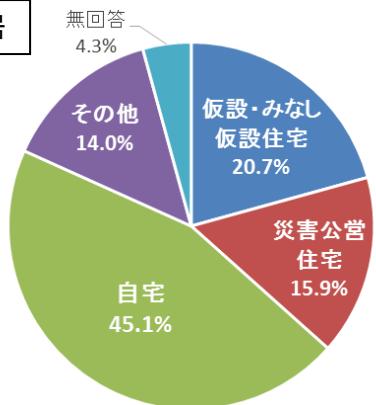
性別



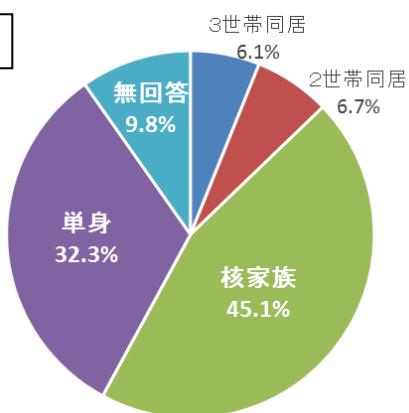
年齢



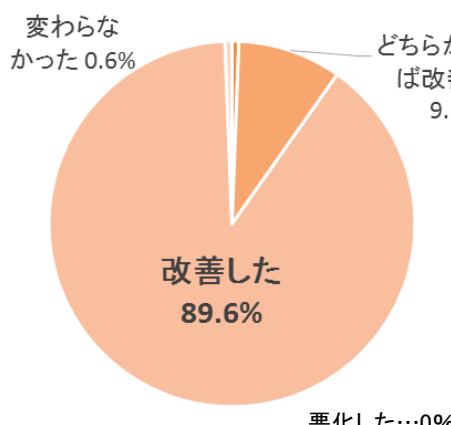
住居



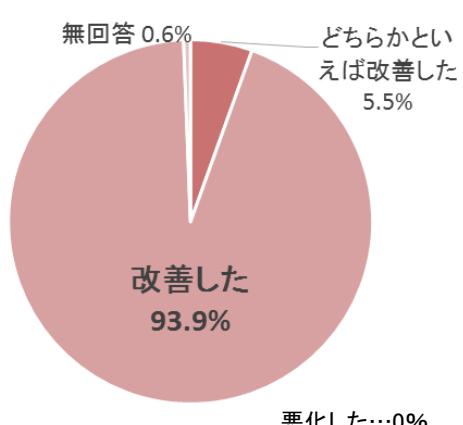
家族



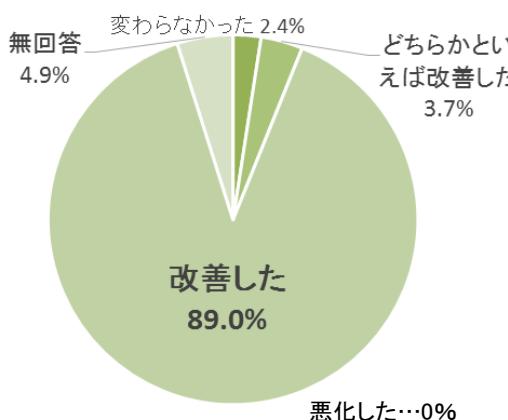
孤立感や不安が軽減した



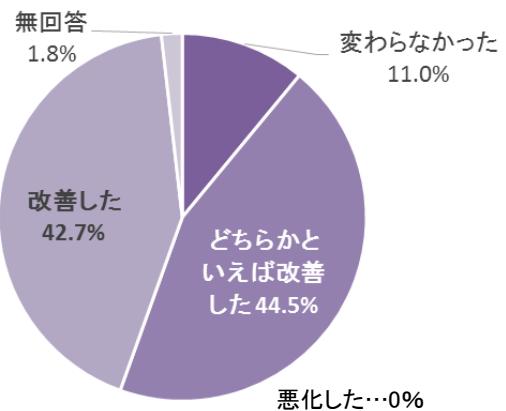
心身の健康改善につながった



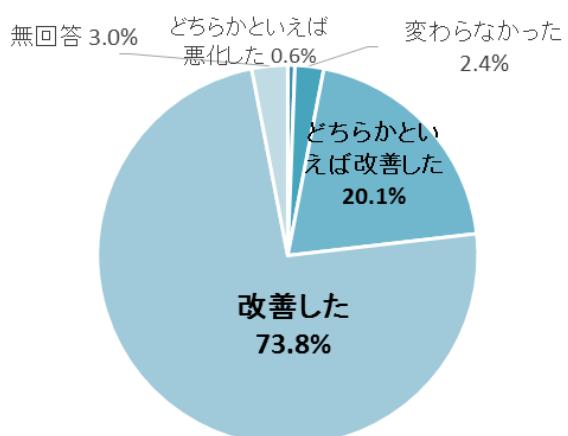
家族の負担軽減につながった



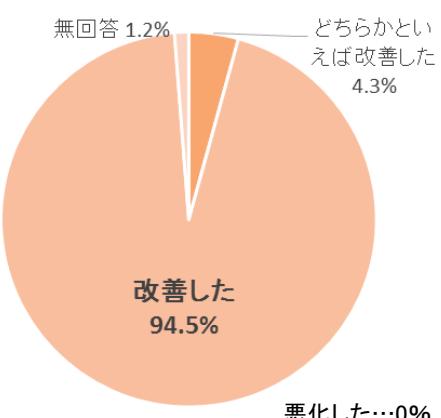
他人との交流が増えた



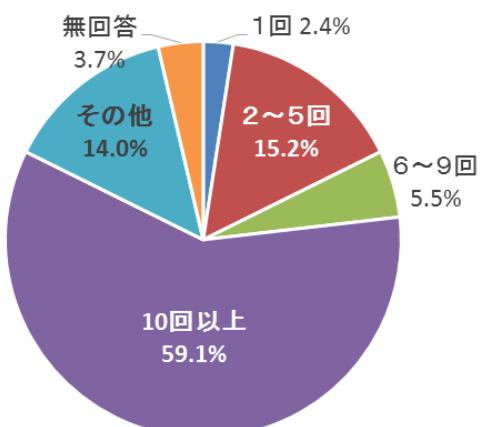
これからの生活に前向きに活動できるようになった



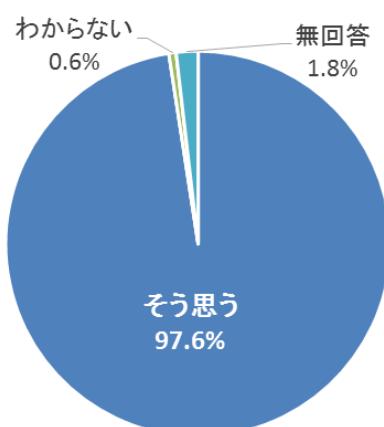
日常生活の手助けになった



受けている支援の回数



今後も支援を受けたいか



自由記述欄より(原文ママ)

- ◆ レラさんを利用する様に成ってから病院通もおっくうにならず、きちんとちゃんと行ける様に成って、本当に時のうじ神様です。スタッフの方々もみなしんせつな方々で気づかいなく、安心して通院できます。私達は長く利用出来る事を重ねてお願致します。
- ◆ 利用始めたのが4年半ぐらい前からだと思います。色々な面でとても助ってあります。レラさんがなかったら私達生活できないです。本当に、助ってあります。これからもどうか続けてほしいです。やめないで下さい。お願い致します。
- ◆ 通院送迎で時間に余裕が無い事と思いますが数年間買い物をした事が無く主人の歩行出来るうちに、最後の買い物をして見たいです。天候に恵まれた日に。
- ◆ 経済、笑顔、思いやりに支えられ苦しい事も忘れられます。
- ◆ 協力費も安く申し訳なく思うことがあります。復興住宅に移ってもレラさんを利用したいです。
- ◆ レラさんには、感謝しきれないほど、ありがたく、レラさんのおかげで、私と父は仕事が出来て、生活が出来ています。レラさん無くしては、私共は、生活がなりたたないほどです。
- ◆ 寝たきりの両親の介護をしていますが、自宅のベットから病院への、寝台車での移動も、ゆっくりといねいに行なってくれるので両親も、とても感謝しています。これからもずっと移動支援レラの活動が続くことを願っています。
- ◆ 通院手段がなく、再建の目処も立っておりません。医療費の免除も2016年度で終了とのこと。出来る限り、長く継続していただきたく思うのと同時に、被災地ないし地方都市にとって、深刻な足不足の解消のための当たり前の存在として活動していただけるような団体に移行していただければと思っております。
- ◆ レラの送迎車なければわしは死にたい！
- ◆ 主人と二人利用しております。車イスだったり杖をついたりしてますが、やさしい言葉をかけてくれたり手をかしてくれたり新切にしてくれます。家にこもりがちな私達には、家族の様に思ふこともあります。世間話をしたり車中なごやかな雰囲気でもちろん安全運転ですし、安心して送迎していただいております。レラさんの送迎はとても良いです。
- ◆ 20年ぶりに家族以外の人と外出できた。とても嬉しいです。
- ◆ レラがないと寝たきりになると思ふ。
- ◆ 親切に乗り降り等、手をかして貰ったり、声をかけてくれて目の不自由な私にとって大変嬉しい事ばかりです。
- ◆ 他の人と言葉をかわすことが出来る。交通費がとても助かるレラさんがなかったら通院は続けられない。
- ◆ うつ症の解決に繋がる。孤独感。開放感の解しよう。
- ◆ 災害にあい、体一つで避難して、立上がる事が出来たのはレラさんのおかげです

II. 福祉送迎講習会

福祉車両等を使用した、障害者や高齢者等の移動困難者の送迎を学ぶ場を設け、地域に移動支援の担い手を増やし、安全に送迎できる一般市民を育成することを目的として開催した。

『石巻に行けば、福祉送迎を学べる』をテーマに、2014年より継続的な開催を目指している。

1. 活動概要

- ◆ 福祉車両の操作、運転技術講習、移乗・介助、心構えや接遇等、福祉送迎をおこなうにあたり必要な知識や技術を学ぶ場を提供してきた。
- ◆ 全国で運転講習会を開催している優秀な講師陣に依頼。当団体のスタッフは講師補助として技術提供や進行役などを担うほか、自らも受講生として技術向上に努めた。
- ◆ 年二回開催のうち、第一回（7月開催）は2日間かけて行う国土交通大臣の認定講習。第二回（3月開催）は実技を中心とした勉強会を行った。

2. 講習内容

◆ 第一回講習会

【日時】 2015年7月11日（土）、12日（日） 9:00～16:00

【場所】 石巻専修大学、大学周辺道路

【講義内容】 研修の目的・利用者理解・必要な介助・セダン車両研修・心構えとマナー・福祉車両について・交通法・乗降および運転実技 など ※国土交通大臣認定運転協力者講習

【講師】 関西STS連絡会：柿久保浩次氏、六條友聰氏、高松晴美氏、福田悠介氏、遠藤準司氏

【参加人数】 26名



◆ 第二回講習会

【日時】 2016年3月19日（土） 10：00～16：00

【場所】 石巻専修大学

【講義内容】 宮城県における住民主体の送迎活動、介助・送迎のリスク、介助・移乗実技、福祉車両操作実技 等

【講師】 NPO 法人移動サービスネットワークみやぎ：坂井正義氏、大槻正敏氏

NPO 法人活きる：宮脇貞夫氏

【参加人数】 28名



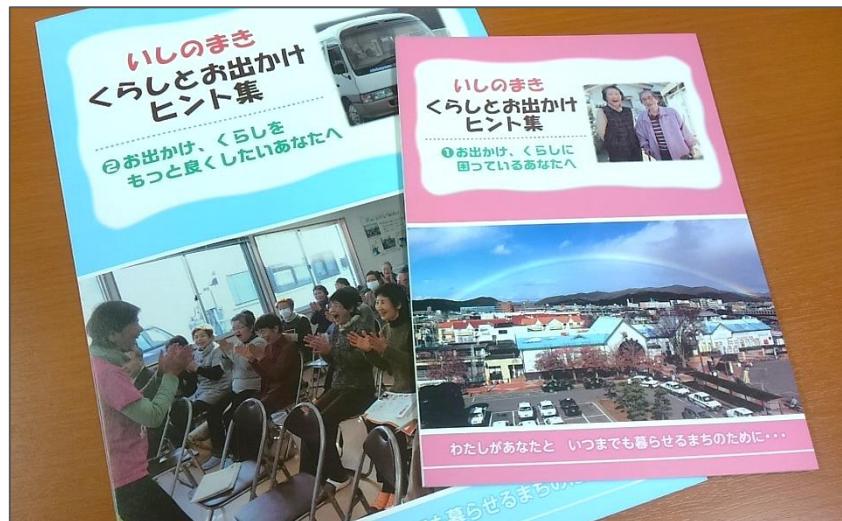
3. 受講者アンケートより

- ◆ 当事者の視点からの話が聞けたことが大変参考になりました。
- ◆ 利用者さんの心理、今まで考えていた事とは全く違い勉強になりました。
- ◆ きりかえを意識して持つという点。他人を乗せることの重み。
- ◆ 車いすで車に乗ってみて、視線の高さや揺れが大きいことなど体験できて良かったです。
- ◆ 自分が車イスに乗って体験学習を行った時の怖さと、相手のサポートを行う時の責任の重さを知りました。
- ◆ スタッフの皆さんが私たちに本気で向き合っていただけたことに感謝です。
- ◆ 送迎する側とされる側の違いを実体験できた事、気持ちがかわりました。
- ◆ 介護の現場で送迎介助をしている者としては、基本的に知っていることが多かったが、見直しにはなった。
- ◆ 他人を乗せているというのがどれだけ責任が伴うものかが印象に残った。

Ⅲ. 連携団体とのネットワーク形成

1. 『いしのまき くらしとお出かけヒント集』の作成

- ◆ 「平成 27 年度宮城県震災復興担い手 NPO 等支援事業」の補助金を受け、石巻地域の公共交通の案内、生活上の困りごとの相談先などを載せた冊子を作成した。
- ◆ 移動困難者のほとんどが、生活上のさまざまな困難を同時に抱えていることから、「移動」の困りごとを解決すると同時に、「移動」以外の困りごとを紹介する冊子とした。冊子を読む対象者は「支援する人」のみならず、「困っている自分自身」がみずから情報を得ることができる、「自分ごと」の冊子とすることを心掛けた。
- ◆ 冊子は二部構成。



『①お出かけ・くらしに困っているあなたへ』…現在移動困難、生活困難な人のために、公共交通機関の利用案内と、地域包括支援センターなどの生活の相談先など、「現在の困りごと」を解決するためのハンディタイプの冊子。A5 サイズ 52 ページ。

『②お出かけ・くらしをもっと良くしたいあなたへ』…外出をすることによって、現在より生活を楽しいものにするための「お出かけしたくなる場所」を紹介。公民館や社協、NPO などの学びと社交の場の案内。後半は福島大学の吉田樹准教授による行政・地域・交通事業者との「三方よし」による新しい交通まちづくりの提案を掲載した。A4 サイズ 31 ページ。

- ◆ 作成協力者として、吉田樹氏（福島大学准教授）、真壁さおり氏（社会福祉士）、橋本泰典氏（前・開成あがらいん所長）らと協議し、取材と執筆を行った。
- ◆ 取材にあたり、石巻地域の交通事業者、地域包括支援センター、NPO 支援オフィス、社会福祉協議会等、多くの機関を訪問し、連携をとった。完成した冊子は各公民館や地域包括支援センターへ無償配布。地域包括支援センターからは追加で欲しいとの要望が来ている。

2. 『みんなで作る 復興まちづくりと交通フォーラム』の開催

- ◆ 上記冊子作成と同様、「平成 27 年度宮城県震災復興担い手 NPO 等支援事業」の補助金を受け、交通事業者と NPO、まちづくりの支援団体、学識者、一般市民等が一緒に今後の石巻地域の新しいまちづくりと移動を考えるためのフォーラムを開催した。

【日時】 2016 年 3 月 21 日（月） 13：30～16：30

【場所】 石巻専修大学 5302 教室

【プログラム】 ①基調講演 吉田樹氏『くらしの足を守る「三方よし」のススメ』

②パネルディスカッション『多様な担い手とまちの交通を考える』

【パネリスト講演】

石巻市復興政策部 若山俊弘氏

岩手地域づくり支援センター 若菜千穂氏

宮城県タクシー協会石巻支部 勝又二郎氏

石巻市仮設大橋団地自治会長 山崎信哉氏

日本カーシェアリング協会 吉澤武彦氏

③まちと移動の「未来図」を描く勉強会

【参加人数】 約 30 名



- ◆ 当団体が初めて主催し、また、石巻地域で初めての、「まちづくり」と「交通」に特化した、各分野の専門家によるフォーラムであった。テーマは『私があなたといつまでも暮らせるまちのために』。コンセプトは「要望の場にしない」「楽しむ場」とした。
- ◆ 参加者からは「様々な立場の人の話が一度に聞けて有意義だった」「貴重な話が聞けた」等の感想が寄せられた。多様な分野の登壇者が、それぞれの立ち位置での意見を交換し、自分とは異なる視点を共有しまちづくりを考える機会を創造した。

《ⅡおよびⅢの事業に要した費用》 ……2,861 千円

IV. 外部協力者と連携した団体組織基盤強化

前年度に引き続き、日本 NPO センターによる「東日本大震災現地 NPO 応援基金」の助成を受け、団体組織基盤強化に大いに力を注いだ 1 年間であった。

1. 活動概要

- ◆ プログラム全体のコーディネーターとして、地域社会デザイン・ラボの遠藤智栄氏に協力いただいた。相談、検討の結果、月に一度の組織基盤強化を目的とした研修会を開催することを決定した。遠藤氏には、研修会内容のみならず、組織全体の再認識や会議の進め方など、事業の趣旨を理解いただいた上で幅広い助言をいただいた。
- ◆ 研修は、送迎を休んでスタッフ全員が出席しておこなう形態とした。月に一度、当法人事務所ではない場所を会場として、テーマごとに様々な講師を招いて学習、協議、見学等のプログラムを受けた。
- ◆ これまで、夕方に行なうスタッフミーティングのほかにほとんど話し合いの場を持つこともなかった当団体であったが、月に一度の研修は非常に大きな学びとなった。

2. 実施日程

7月1日 第1回	テーマ：『団体（チーム）と自分』 講師：山崎泰央氏（石巻専修大学教授）
7月10日 第2回	テーマ：『移動支援の先輩の歩んできた道のりから学ぶ』 講師：柿久保浩次氏（関西 STS 連絡会）
7月27日 第3回	テーマ：『人間心理とコミュニケーション、NPO 運営の基礎理解』 講師：高橋由佳氏（NPO 法人 Switch）、赤澤清孝氏（大谷大学講師）
8月26日 第4回	『現在の課題の検討、移動サービス活動の課題解決、今後の活動の検討』 講師：杉本依子氏（NPO 法人ハンディキャブゆづり葉）、 秋山絲織氏（NPO 法人移動サポートひらけごま）
9月16日 第5回	テーマ：『現在の課題の話し合い、今後の活動の検討』 講師：伊藤みどり氏（NPO 法人全国移動サービスネットワーク）
10月11、12日 第6回	テーマ：『今後の活動の検討』 講師：杉本依子氏（NPO 法人ハンディキャブゆづり葉）、 秋山絲織氏（NPO 法人移動サポートひらけごま）
11月18日 第7回	テーマ：『今後の活動の検討 他団体の現場を訪ねて』 講師：坂本一氏（一般社団法人まなびの森）、 渡辺典子氏（NPO 法人ほっとあい）

- 12月15日 第8回 テーマ：『福祉の仕組みを学ぶ・考える、今後の活動検討のために』
講師：布田剛氏（NPO法人地星社）、石原祥子氏（キャンナス東北）
- 1月25日 第9回 テーマ：『福祉の仕組みを学ぶ・考える、今後の活動検討のために』
講師：坂井正義氏（NPO法人まごころサービス塩竈センター）
- 2月19日 第10回 テーマ：『今後の活動を考える』
講師：山崎泰央氏（石巻専修大学教授）
- 3月22日 第11回 テーマ：『今後の活動を考える』
講師：山崎泰央氏（石巻専修大学教授）

基盤強化への取り組み

◆2015 外部協力者と連携した、団体組織基盤強化プロジェクト◆

- 今後のあり方を考える
- 他団体から学ぶ
- さまざまな送迎の形態を学ぶ
- 行動指針をつくる
- NPOについて学ぶ
- 人間の心理を学ぶ
- チームビルディング
- 組織課題の洗い出し

年間アドバイザーの決定。
目標の確認。研修計画の作成。
→月に一度のスタッフ研修会を行うことに。

- ◆ 遠藤智栄氏と共に年間を通じた流れやゴールを設定し、毎回の研修の質のみならず、組織の意思決定の「場づくり」、話し合いの「習慣づけ」、講師とスタッフの「関係づくり」等の基盤強化を意識した働きかけを年間通して行った。
- ◆ 組織運営や事務局業務を1名あるいは少数のスタッフによる属人的な業務が大半を占めているという課題に対し、研修を通じて課題を複数のテーマに分け、担当者を置いて進捗状況の報告を行う仕組みを習慣化させることで、課題を全員で意識し、各自が行動と発言に責任を持つという考え方、進め方を浸透させてきた。

《IVの事業に要した費用》 ……1,968千円

V. 茨城県常総市の水害被災地支援

1. 活動概要

- ◆ 2015年9月、東北関東豪雨災害によって河川が決壊し激甚な被害を被った茨城県常総市より救援の要請を受け、9月～現在まで、常総市における移動支援団体立ち上げを支援してきた。
- ◆ 日本財団の黒澤氏より連絡が入り、10月1日に急遽常総入り。現地でももくり基金の柿久保氏、茨城福祉移動サービス団体連絡会の高松氏、全国移動サービスネットワークの伊藤氏などと共に、現地のNPO法人コモンズの横田理事長より状況の説明を受け、コモンズを主体とした移動支援団体の設立を後方支援することを決定した。
- ◆ 数千台の車両を流失した常総市の移動問題は石巻と共通した部分も多く、地域に根差す移動支援団体を設立するにあたっては、当団体の石巻における送迎ノウハウが非常に役立った。送迎の仕組み、ボランティア集め、使用するPCファイルやチラシ、組織形成とトラブル対策、あらゆる場面でこれまでの経験が活かされた。
- ◆ 団体としても、他の地域の災害移動支援に携わった初めての機会となり、外部支援者としてノウハウ移転を行った事は非常に大きな学びの場となった。多くの災害救援団体とのネットワーク強化にもつながった。



2. 支援日程

- 10月 村島（1日～3日、6日～10日、14日～20日）、植野（8日～10日）、
鈴木（13日～16日）、渡邊（19日～23日）、成田（24日～25日）、
梅本（26日～30日）
- 11月 村島（1日～3日、20日～23日、28日～29日）、植野（14日～17日）、
遠藤（8日～13日）、嘉多（17日～23日）
- 12月 村島（20日、21日、23日）、植野（3日～5日、16日～19日、23日）、
渡邊（23日）
- 1月 村島（16日～17日）
- 2月 村島（6日～7日、27日）
- 3月 村島（26日）
- ◆ 支援内容…移動支援団体立ち上げ業務全般（受付、配車、送迎、ちらし作成、広報、利用者管理、
ボランティアコーディネート、スタッフ募集、技術研修、相談その他）

《Vの事業に要した費用》 ……482千円

VI. その他の活動

交通案内ウェブページ作成

- ◆ 昨年に引き続き、青森県八戸市の青い森ウェブ工房に委託し、バス路線案内ページの情報更新
と仕様変更等を行った。

<http://ishinomaki.buste.in/>



- ◆ デザインと使いやすさを改善。
◆ バス停の位置情報などを、より正確に改善した。
◆ 検索機能を増設、時刻表データを更新。 等

活動報告会

- ◆ 2015年5月31日、通常総会に続けて、移動支援Rera4周年活動報告会を開催した。活動開始時よりお世話になった、多くの支援者の方々や連携団体等に声掛けを行い、全国より数多くの関係者が集まり、盛況に開催することが出来た。
- ◆ これまでの歩みを振り返ると同時に、関係者同士の交流を深め、あらためて連携を意識する機会となった。



石巻の移動困難者を考えるワークショップ

- ◆ 2015年8月20日、NPO法人地星社主催のワークショップに協力した。移動支援Reraの利用者を対象としたアンケート調査（2014年度実施）の集計結果をもとに、石巻地域の高齢化を予測し、移動問題の解決策を地域住民主体となって考えた。
- ◆ 開催の提案をして下さった川北秀人氏（IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]代表者）が講師も務めて下さい、問題意識の共有や「横のつながり」の強化など、中身の濃いワークショップであった。



VII. 運営に関する報告

移動支援 Rera 会員数

正会員	16名	(前年より2名増)
賛助会員	50名	(前年より26名増)

寄附・寄贈

- ◆ 2015年度受取寄附金 8,813,919円 (前年比 △3,619,926円)
- ◆ 2015年度 寄附件数 157件 (前年比 △23件)
- ◆ 車両寄贈・物品寄贈 等
東京数寄屋橋ライオンズクラブ様より ワゴンR
東京江東南ライオンズクラブ様より キューブ

理事会体制の再編

- ◆ 理事会の再編
2016年1月開催の臨時総会をもって理事会体制を再編した。
<新任>理事4名 監事1名 <退任>理事4名 <再編後>理事9名、監事2名

以上